

全国に誇れるまちに

獣医学部

186人の若者が入学

「市をあげて学生を歓迎したい」

剤になると思います。

若者の流出に歯止め 畜水産業の振興に

市長・菅良二 大学の誘致は、昭和50年に学園都市構想を表明して以来、歴代の市長が目指してきた40年来の悲願でした。四国は、畜水産業が盛んでありながらも、獣医学部がないため、平成19年から愛媛県と一緒

市長 市内からの入

学者は5人です。残りの学生は関西や中国、関東など日本全国から来てくれました。入学した学生にとっては、今治市が第二の故郷になります。私は大学時代、九州で過ごしましたが、大学の時代の恩師や友人は今でもかけがえのない存在で、何より楽しかったです。

る、思い出さなければ今の治ライフを楽しんでもらえるよう、市民の皆さんも学生を温かく迎え入れてほしいです。

記者 今後、大学開学によって新たな取り組みは考えていますか。

市長 大学や大学関連企業、有志団体などと連携し、イベントや応援事業を実施していきます。学生が地域とともに、活動しやすい環境を創出し、今治市全体が一丸となつたまちづくりに取り組めます。

記者 同じく4月から本稼働したごみ処理施設「バリクリン」についてはいかがでしょうか。

市長 今治市には4つのごみ処理施設がありました。老朽化が進んだ施設を1つに統合した新施設がよ

理施設の完成など今治市の節目の年を迎えます。そこでマイタウンは、菅市長の「今後のまちづくり」について聞きました。



▲4月に新設した岡山理科大学獣医学部

記者・竹葉 本日はお忙しいところ、ありがとうございます。

早速ですが、今年4月に大学獣医学部とごみ処理施設「バリクリン」が本稼働しましたが、まず獣医学部については、以前から今治市として大学の誘致を行っていたと聞きました。

誘致に取り組んできました。愛媛県や四国にとつて、食の安全確保や畜水産業が振興のためには、獣医師確保は必要不可欠です。さらに若者の流出に歯止めをかけ、地域活性化につながる起爆



▲最先端のごみ処理施設「バリクリン」が4月から本稼働